

新豎町地区

〔距離〕約4.4km 〔時間〕約70分 〔坂・階段〕あり

スタート 金沢21世紀美術館～①あかねや橋～②里見町こまちなみ保存区域～③豎町交差点～④水溜町こまちなみ保存区域～⑤三宅雪嶺生誕地碑～⑥室生犀星文学碑～⑦慶覚寺～⑧思案橋～⑨鈴木大拙生誕地碑～⑩緑の小径～⑪美術の小径～⑫本多の森公園～⑬石川護国神社～⑭金城霊沢・金沢神社～⑮石浦神社

～ゴール 金沢21世紀美術館



コース概要

見所がたくさんあるコースです。時間のあるときには、金沢21世紀美術館や鈴木大拙館などの文化施設を見て回ったり、商店街にちょっと寄り道したりなど、いろいろとアレンジもできます。

②金沢21世紀美術館

2004年10月9日にオープンした、ガラス張りの円形美術館。金沢市の中心に位置している。「まちに開かれた公園のような美術館」を建築コンセプトとし、誰もがいつでも立ち寄ることができ、様々な出会いの「場」となるような美術館を目指している。館内は有料の展覧会ゾーンと無料の交流ゾーンに分かれており、館内外で、五感で楽しめる、建物と一体化した作品が鑑賞できる。

②里見町こまちなみ保存区域

若者で賑わう豎町に隣接しながら、全く異なったたたずまいを見せる閑静な住宅地。藩政期、加賀藩士・里見氏の屋敷があったことから、「里見町」の名がついたといわれ、敷地を囲む土塀や、豊かな前庭の緑、その奥に控える母屋の大屋根など、かつて武士が暮らした町の特徴をよく留めている。



④水溜町こまちなみ保存区域

桜橋から犀川大橋にかけての右岸、犀川の埋め立てによりできたこの土地には、「水溜」と呼ばれる堀があったことが町名の由来とされている。藩政期、金沢城を囲むように配された藩主直臣の「平土」の居住地として建物が建設されるようになり、現在も土塀やその跡の石垣などから往時の様子をうかがうことができる。周辺の池田町、十三間町、杉浦町とともに、町の成り立ちや歴史を今に伝える旧町名を残す数少ない町でもある。

⑬石川護国神社

はじめは招魂社と称し、卯辰山にある卯辰神社の下にあった。草創は、明治元年(1868)、越後奥羽の乱で戦死した加賀藩士の霊魂のため、十四代慶寧が建立。昭和10年神殿を現在地に建立し、昭和14年、石川護国神社と改称された。境内は市指定保存樹林。スギ・アカマツ・ツバキ等で構成されている。境内中央にあるゴヨウマツは樹容も素晴らしく、一見の価値あり。

⑭金沢神社

文政6年(1823)十一代治脩が十二代斉広の竹沢御殿の鎮守として創建した。文政7年(1824)、御殿は壊されたが竹沢天神は存続され明治7年(1874)金沢神社と改称された。祭神は前田家の先祖とされる菅原道真公で、学問の神様としても有名。境内が市指定保存樹林。スギ・モミ・クロマツ等で構成されている。隣接する兼六園の緑と一体となった景観を形成している。